理学博士河合雅雄氏の「日本及びアフリカにおける霊長類の野外研究――とくに環境適応と社会形成の研究――」に対する授賞審査要旨

ヒト以外の霊長類は、ヒト（人類）にとって最も近縁な生物であり、その研究は人類進化の解明に大きな役割を果たしている。とくに環境適応との関連で人類社会がどのように形成され、進化してきたかを明らかにするためには、自然の中で、ヒト以外の霊長類の生態と社会の研究をすることが何よりも重要である。この点に注目して河合雅雄氏は、京都大学の故今西錦司氏、故伊谷純一郎氏、故川村俊蔵氏らとともに、野生のニホンザルの野外研究を、個体識別法を用いて行い、多くの重要な発見をして霊長類学の基礎を作った。更にアフリカにおいて、ゲラダヒヒなどの森林性霊長類のコミュニティについて、社会構成、環境適応などの視点から研究を行い、大きい成果を挙げるとともに、研究組織を育成して、霊長類学の発展につとめた。

この間、河合氏は国際英文学術雑誌「プリマーテス」の編集長、日本霊長類学会長、日本ナイル・エチオピア学会長などを歴任し、霊長類学の発展に貢献しただけでなく、エチオピアの地域研究の道も拓いた。

現在、人類の活動の拡大に伴う熱帯雨林の破壊によって、多くの霊長類が絶滅の危機に瀕しており、対策が大きい課題になる。河合氏自身霊長類の保護に熱心であるが、同時に河合氏の霊長類の環境適応と社会構造・社会形成の研究成果は、霊長類の保護に貢献するものと考えられる。

同氏の主要な研究は以下の如くである。

一、ニホンザルの研究

河合氏のニホンザルの研究は、霊長類における「文化」ないし文化的行動研究の基盤となった。その基盤としてまず、野生ニホンザルの社会の研究から始めた。メスの社会的優劣順位を、依存順位の発見によりダイナミックにとらえた。順位の問題は社会学的、心理学的に重要な問題として以後発展してきたが、河合氏の研究は、霊長類の順位の研究では必ず引用される基礎的な研究となった。さらに、ニホンザル社会に階層構造の存在を発見するなど、ニホンザルの社会学・生態学の確立と総合化につとめた。ニホンザルの「芋洗い行動」、および「小麦の砂金採集法」などの文化的行動を発見し、

詳細な記録と分析をおこなった。さらに、文化的行動の伝播のメカニズムを解明した。この研究をもって初めて、「ヒト以外の霊長類にも文化的行動が存在する」ことが十分な科学的説得性をもって確立した。以上の業績の一端に対して、昭和四四年朝日賞（今西氏らと同時受賞）が与えられている。

二、アフリカにおける霊長類の研究

日本での研究を土台として、人類発祥の地であるアフリカで、野生霊長類の研究を展開した。主に、以下の三つの研究を行った。第一は、「ウガンダ国における、テレメトリーを用いた森林性霊長類の研究」である。森林における霊長類の研究はたいへん困難であり、ほとんど手がつけられていなかった。河合氏は、日本でテレメトリーを動物につける最初の計画を組織し、このテレメトリーによってウガンダの森林性霊長類の生態を明らかにしようとした。これによって、直接観察では不可能な森林性霊長類のアクティビティ・リズム、行動域等の資料を得て、その後、森林に基礎をおいたユニークな霊長類の生態進化論を展開した。ウガンダ国の政治的動乱を契機にエチオピアに調査を移した。

第二は、「エチオピア国におけるゲラダヒヒ、及び雑種ヒヒの研究」である。ゲラダヒヒについては、それまで、個体識別にもとづいた調査がおこなわれていなかったが、三〇〇頭あまりの個体識別をふまえた調査をおこなった。研究は、生物経済学、個体群動態学、社会学等の多面的な成果をあげ、英文の単行本として、スイスで出版されている霊長類学シリーズの一巻として収められた。

第三は、「カメルーン国におけるマンドリルをはじめとする森林性霊長類のコミュニティと生物多様性の研究、および草原性霊長類の比較研究」である。森林性のヒヒであるドリル、マンドリルの研究を目的とするとともに、森林性霊長類のコミュニティの研究を目的とした。調査は困難をきわめたが、マンドリル社会の概要を把握した。また、森林性の霊長類については、混群形成のメカニズム解明などかなりの成果を得た。また、草原に進出したパタスザルの研究では、その社会の維持機構と環境適応が明らかにされた。

こうした上述の、河合氏の研究業績が世界の霊長類学にとって先駆的な役割を果たしてきたことは、今日国際的にもひろく認められている。このことは、欧米で多数出版されている霊長類学関係の書籍の多くに、河合氏の研究が多数引用されていることからも明白である。なお、河合氏は、霊長類学という学問分野にたいする貢献にとどまらず、本人の研究成果および霊長類学の知識を広く一般の人々に知らせ社会に還元することに努力し、専門の著書以外に、そ

の成果をひろく一般向けに記述し、中学生程度にも理解できるような文体であらわした著書をこれまで数多く出版している。また、最近では、兵庫県立人と自然の博物館名誉館長や兵庫県立丹波の森公苑長として、森林と生物多様性保護の活動を精力的におこなっている。この人と自然の博物館長に就任以来の新たな国際協力ならびに環境教育として、一九九六年からマレーシア・サバ大学と共同して、ボルネオの自然に関する研究を始め、青少年の環境教育運動「森の教室」を展開している。「子どもと自然」の関わりをたいせつにする視点から、次世代の生態学研究者の眼を育てているとも言えるだろう。

以上、河合雅雄氏は霊長類の野外研究を通して、環境の社会の形成及び維持機構への影響を明らかにし、自然保護・種の保全に貢献する研究成果を挙げた。また様々な実践活動を通して、森林と生物多様性の保護運動を精力的に展開した。

主要著書・論文等一覧

【学術著書】

飼いウサギ「日本動物記I」、光文社、一九五五年（単著）。
ニホンザルの生態、河出書房、一九六四年（単著）。
世界のサル、毎日新聞社、一九六八年（共著）。
森林がサルを生んだ―原罪の自然誌、平凡社、一九七九年（単著）。
霊長類学への招待、小学館、一九八四年（編・単著）。
アフリカからの発想―文化と進化の接点―、小学館、一九八五年（編・共著）。
霊長類の生態「霊長類学入門」、岩波書店、一九八五年（編・単著）。
人類以前の社会学、教育社、一九九〇年（編・単著）。
人間の由来（上・下）、小学館、一九九二年（単著）。
サルからヒトへの進化、日本放送出版協会、一九九五年（単著）。

【一般向著書】

ゴリラ探検記、光文社、一九六一年（単著）。
動物と人間、思索社、一九八〇年（共著）。
サルの目ヒトの目、平凡社、一九八〇年（単著）。
0才児の驚異、パンリサーチインスティテュート、一九八二年（共著）。
日本人の精神構造に今何が起こったか、講談社、一九八三年（共著）。
愛着と自立、金子書房、一九八三年（共著）。
人類進化のかくれ里、平凡社、一九八四年（単著）。
動物の行動、放送大学教育振興会、一九八五年（共著）。
子どもと生きる、創元社、一九八五年（共著）。
望猿鏡から見た世界、文化出版局、一九八六年（単著）。
学問の冒険、佼成出版社、一九八九年（単著）。
子どもと自然、岩波書店、一九九〇年（単著）。
森の歳時記、平凡社、一九九〇年（単著）。
サルからヒトへの物語、小学館、一九九二年（単著）。
進化の隣人、毎日新聞社、一九九二年（編・単著）。
みどりからのメッセージ、武雄市、一九九二年（共著）。
もり　人　まちづくり、学芸出版社、一九九二年（編・単著）。
ことばの野生を求めて、筑摩書房、一九九二年（共著）。
草原の思想・森の哲学、講談社、一九九三年（共著）。
文明と環境、日本学術振興会、一九九五年（共著）。

河合雅雄著作集全一三巻、小学館、一九九六年（単著）。
森に還ろう―自然が子どもを強くする、小学館、二〇〇三年（単著）。

【児童文学】
少年動物誌、福音館書店、一九七六年（単著）。
人類誕生の謎をさぐる―アフリカの大森林のサルの生態、大日本図書、一九七七年（単著）。
ゲラダヒヒの紋章、福音館書店、一九七八年（単著）。
サバンナの二つの星、福音館書店、一九八二年（単著）。
ジャングルタイム、理論社、一九八五年（単著）。
小さな怪物誌、筑摩書房、一九九一年（単著）。

【英文著書】
Proceeding from the Symposia of the Fifth Congress of the International Primatological Society. Japan Society Press, Tokyo, 1975（編・著）.
Contemporary Primatology. Karger, Basel, 1975（編・共著）.
Ecological and Sociological Studies of Gelada Baboons. (Contributions to Primatology 16), Karger, Basel, 1979（編・単著）.

【論文】
ニホンザル自然群における順位制について、Primates, 1 (2)、一九五八年（単著）。
An ecological study on the wild mountain gorilla (*Gorilla gorilla beringei*). Primates, 2 (1), 1960（共著）.
A field experiment on the process of group formation in the Japanese monkey (*Macaca fuscata*), and releasing of the group at Ohirayama. Primates, 2 (2), 1961（単著）.
Newly-acquired precultural behavior of the natural troop of Japanese monkeys on Koshima Island. Primates, 6 (1), 1966（単著）.
Ecological studies of reproduction in Japanese monkeys (*Macaca fuscata*). Primates, 8 (1), 1968（共著）.
Some observation on the solitary male among Japanese monkeys. A pilot report for a sociotelemetrical study. Primates, 9 (1-2), 1969（共著）.
森林とサル―霊長類進化における生態学的アプローチ、季刊人類学、3(1)、一九七二年（単著）。
Quantitative study of activity patterns and posture of Formosan monkeys by the radio-telemetrical technique. Primates, 14 (2-3), 1973（共著）.
Precultural behavior of the Japanese monkey. Gustav Fisher Verlag, 1975（単著）.
A quantitative study on the activities of the forest-living monkeys in the Kibale forest of Uganda by using a radio-telemetrical technique. Kyoto University African Studies, 9, 1975（共著）.
Studies of gelada society. Contemporary Primatology, 1975（共著）.
Ecological studies of forest-living monkeys in the Kibale forest of Uganda. Kyoto University African Studies, 10, 1976（共著）.
Radio-telemetrical studies on the monkeys. JIBP Synthesis, 1977（単著）.
Auditory communication and social relations. Contributions to Primatology, 16, 1979（単著）.
Spacing within units and unit integrity. Contributions to Primatology, 16, 1979（共著）.
Nomadism and activities. Contributions to Primatology, 16, 1979（共著）.
Social organization of gelada baboons: Social units and definitions. Primates, 24 (1), 1983（共著）.
Preliminary report on the grouping of Mandrills (*Mandrillus sphinx*) in Cameroon. Primates, 25 (3), 1984（共著）.
Polyspecific association and hybridization in the primate community.

Physiology and Ecology, 24, 1987（単著）.
Pre-cultural behaviors observed in free-ranging Japanese monkeys on Koshima Island over the past 25 years. Primate Report, 32, 1992（共著）.
Lateralized hand use in the pre-cultural bahavior of the Koshima monkeys (*Macaca fuscata*). In: Primate Laterality-Current Behavioral Evidence of Primates Asymmetries. Springer-Verlag, NY, 1993（共著）.
動物との共存は可能か、学術月報、47（3）、一九九三年（単著）。
Anti-predator behavior of Gelada Baboons. Primates, 37 (4), 1996（共著）.
"Sweet-potato washing" revisited. In: Primate Origins of Human Cognition and Behavior. Springer-Verlag, Tokyo, 2001（共著）.

【その他】
ボスザルの性と支配、自然2、一九七一年（単著）。
比較霊長類社会学、バイオテク3、一九七二年（単著）。
森林のサルと進化、サイエンス7、一九七二年（単著）。
動物社会における性の役割、言語12、一九七四年（単著）。
ゲラダヒヒ―サルからヒトへ、別冊サイエンス、一九七六年（単著）。
雑種化と霊長類の進化1、自然11、一九七六年（共著）。
雑種化と霊長類の進化2、自然12、一九七六年（共著）。
霊長類の行動特性と人類進化、創造の世界24、一九七七年（単著）。
道徳秩序の動物学的起源、ライフサイエンスの進歩6、一九七九年（単著）。
アフリカの霊長類の生態、アフリカ研究18、一九七九年（単著）。
動物社会学「精神医学概論」、中山書店、一九七九年（単著）。
日本霊長類学会の誕生、霊長類研究1（1）、一九八五年（単著）。

【翻訳】
森の隣人（ジェーン・グドール著）、平凡社、一九七三年（単訳）。
動物の社会行動（ウィリアム・エトキン著）、思索社、一九八〇年（共訳）。
ゴリラ（アラン・グドール著）、草思社、一九八四年（共訳）。
図説人類の進化（デビッド・ランバート著）、平凡社、一九九三年（監訳）。